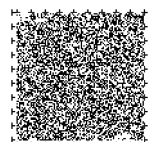


Fukuoka Asian Art Museum

福岡アジア美術館

施設拡充等基本計画【概要版】



福岡アジア美術館(以下「アジア美術館」といいます)は、開館から25年以上が経過し、設備の老朽化や、展示・収蔵スペース不足、気軽に立ち寄れる場所としての認識不足といった課題が出てきています。このため、アジア美術館では、2023(令和5)年度より検討を進め、これまでの活動や蓄積を継続し、さらに磨きをかけて魅力向上を図るため、施設拡充を行うこととしました。

本計画は、その実現に向けて、施設整備や管理・運営の考え方を取りまとめたものです。

アジア美術館の魅力向上の基本的な方針

**アジア美術と出会い、その問いかけから、自分と世界を見つめる美術館
交流を通じて、アジア美術の発展と福岡市の都市の魅力向上に貢献する美術館**

＜これからのアジア美術館の方向性＞

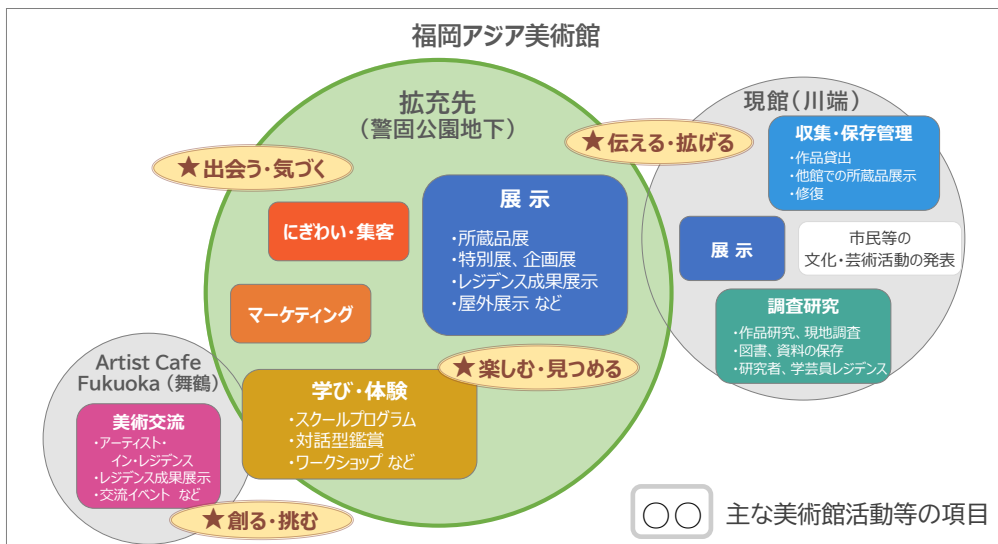
1. 出会う・気づく – アジア美術と気軽に出会う場 –
2. 楽しむ・見つめる – アジア美術を楽しみ、自分や世界を見つめる場 –
3. 伝える・拡げる – アジア美術の魅力を発信し、発展に貢献する場 –
4. 創る・挑む – アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場 –

アジア美術館の機能分担

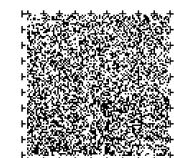
アジア美術館は、拡充先(警固公園地下)、現館(川端)、Artist Cafe Fukuoka(ACF)(舞鶴)の3拠点を連動させ、相乗効果を発揮するとともに、効果的な運営を図ります。



3 拠点の役割分担イメージ



3館での主な美術館活動等とこれからのアジア美術館の方向性(★)の分担イメージ



拡充先(警固公園地下)

天神の中心に位置する警固公園地下に展開し、アジア美術館の活動の中心として、アジア美術を見せる新たな発信拠点となることを目指します。

美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地良く過ごせる文化的な空間を創出し、天神の文化的魅力を一層高め、また、多彩な体験価値を昼夜提供することで、多様な来館動機を創出し、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、アジア美術と出会い、気づく場となることを目指します。

さらに、アジア美術を楽しみ、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる場を目指します。

また、福岡市美術館など市内ミュージアムの所蔵品を活用した多角的なアジア美術の展示を行います。

【導入する主な機能】

・展示機能

アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保します。

・学び・体験機能

楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について知る機会となる場を提供します。

・にぎわい・集客機能

展示機能と一体的に展開し、多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくります。

現館(川端)

これまでの活動の蓄積や現在の施設環境を活かし、収蔵、調査研究機能を拡充するとともに、拡充先での展示内容を支え、補完することで、アジア美術の魅力を広く伝え、広げていきます。

既存の展示室等を活用し、市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場を目指します。

【拡充、継続する主な機能】

・展示機能

既存の展示室を活かし、アジア近現代の美術作品の歴史的・文化的な背景にフォーカスした展示等を行うとともに、来館者のアジア美術への理解を深めることで、拡充先での展示内容を補完し、相乗効果を得られるような展示を行います。

・収蔵機能

収蔵スペースを拡張し、コレクションを適切に保存・管理します。

・調査・研究機能

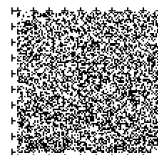
収蔵作品の調査研究を進める機材やスペースを整備するなど、研究環境の充実を図ります。これまで蓄積してきた調査資料等をより適切に保管・整理します。

・市民等の文化芸術活動の発表

市民をはじめ、美術活動者の文化・芸術活動の発表の場としてこれまで定着している利用のニーズが高いスペースについて、引き続き、確保します。

Artist Cafe Fukuoka(ACF)(舞鶴)

アーティストの創造性を高め、チャレンジを支える場として、アーティスト・イン・レジデンス事業等の活動や支援を行います。



拡充後のアジア美術館の活動

「アジア美術館の魅力向上の基本的な方針」の実現に向けて、拡充した後のアジア美術館においては、下記の活動を展開します。

展示

収集されたコレクションを市民に広く紹介し、アジア近現代美術への興味や親しみを増すような展示環境を整備します。

拡充先では、アジア現代美術の傑作を中心に、アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、作品の特性を生かした、質の高い展示空間を確保します。

学び・体験

誰もが楽しみながらアジア美術を体験し、新たな視点や価値観に触れ、多文化や多様性について知る機会を提供します。

また、教育機関と連携し、アジア美術に関わる教材やプログラムの開発を行います。

調査研究

アジアにおけるアジア近現代美術の動向や新進作家の調査等を通して、アジア近現代美術と社会・人々との関わりについて新たな視点を提供します。

収集保存

アジア美術の独自性や固有の美意識を示す作品を収集し、新たなアジア美術の価値の創造を目指すとともに、良質なアジア近現代美術の作品資料を体系的に収集し、魅力あるコレクションを構築します。

美術交流(レジデンス)

アジアからアーティストや研究者を招へいし、市民との美術交流を実施します。

にぎわい・集客

展示機能と一体的ににぎわい・集客を図る取組みを展開し、様々な人々にアジア美術との出会いの機会を提供します。

また、国内外の来訪者を呼び込み、アジア美術の魅力、コレクションを世界に発信します。

市民の文化・芸術活動の場

美術館活動をサポートするボランティアの育成のほか、市民の文化・芸術活動の場を提供します。

拡充先の概要

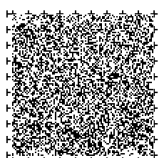
当館の拡充先の整備にあたっては、警固公園の既存の地下駐車場を活用します。



位置図



拡充先(警固公園)現況図



拡充先における施設整備の基本的な方針

まちをつなぎ、人をつなぐ福岡の新たな顔

①公園との連携、一体化

- ・天神の中心に位置する、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出し、まちへも広げる仕組みづくりを行います。

②まちの顔となる高い意匠性

- ・人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設を整備します。
- ・外光が入る空間や開かれた空間を設けるなど、地上の公園と地下の美術館をつなぐとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等を整備します。

③まちづくりへの貢献

- ・周辺環境と調和しつつ、美術館と公園、まちをつなぎ、周辺施設とも連携しながら、都心部のアート、文化観光の核として展開できる施設整備を行います。

④地域との多様な連携

- ・周辺の施設や企業等と連携ができ、地域の回遊性やブランド価値の向上に貢献し、相乗効果を得られる施設整備を行います。

持続可能で安心、快適な美術館

①環境への持続可能な配慮

- ・既存構造物の再利用をはじめ、省エネルギー機器の導入等、環境へ配慮した施設整備を行います。
- ・適切な維持管理等、持続可能な運営を実現する施設整備を行います。

②その他の視点

<快適に楽しめるユニバーサルデザイン>

- ・誰もが文化芸術を快適に楽しめる、バリアフリーやユニバーサルデザインを実現します。

<人と作品を守る高い防災性>

- ・来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間の特性を踏まえた浸水対策をはじめとする取組みを進め、高い防災性能を確保します。
- ・地上に一時保管庫を設けるなど、バックアップ機能を備えた施設とします。
- ・セキュリティを意識した動線の取り方等、施設の防犯性能を確保するとともに、地域の安全・安心にも貢献する施設整備を行います。

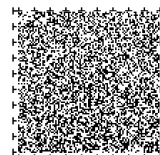
拡充先の整備計画

来館者・公園来訪者のアクセス

- ・来館者にとってわかりやすく、交通結節点を踏まえた、地上・地下からの来館者の円滑なアクセスの検討や、公園来訪者の動線等を踏まえたアプローチやエントランス等の施設配置を検討します。

車両のアクセス

- ・周辺の道路事情を踏まえた、歩行者の安全に配慮した車両動線を検討します。
(搬出入の車両、車いす利用者用駐車場等)
- ・特に、搬出入車両の動線は、大型車が安全に通行可能な幅員を有する道路(警固公園通り)側、公園の西側となるよう検討します。
- ・美術品等の搬出入時の利便性、セキュリティ等に配慮した車両動線を計画します。



公園等との連携の考え方

- ・誰もが憩える魅力的な文化的空間の創出に向け、これまで培われた公園のあり方を踏まえた、公園との連携や一体化を図ります。
- ・公園と周辺に開放された動線やまとまった広場空間、見通し、みどり空間といった既存の公園機能等の確保が必要です。
- ・既存機能(便所、駐輪場、安全安心センター)の継続を前提とした、公園の魅力や利便性の向上と、美術館の意匠性を両立する空間構成を検討します。
- ・周辺施設と連携し、にぎわいを生み出す仕組みをつくります。
- ・地域ニーズへの貢献ができる取組みを検討します。

地上部の利活用に関する考え方のまとめ



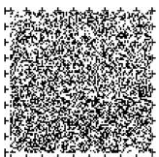
拡充先の機能・諸室

地上について

公園施設の建蔽率を考慮し、搬入出口や一時保管庫、各種機械室等、管理運営上、最小限必要な諸室の配置を検討するとともに、象徴的なエントランスの確保について検討する必要があります。

地下について

既存の駐車場を再利用し、展示空間として活用するため、天井高さを確保するよう構造等を検討し、ギャラリーを中心とした諸室配置を検討します。その他の諸室については、現在のスロープ部等を活用した地下増築を含め、検討します。また、地下での計画にあたっては、採光の工夫についても考慮する必要があります。

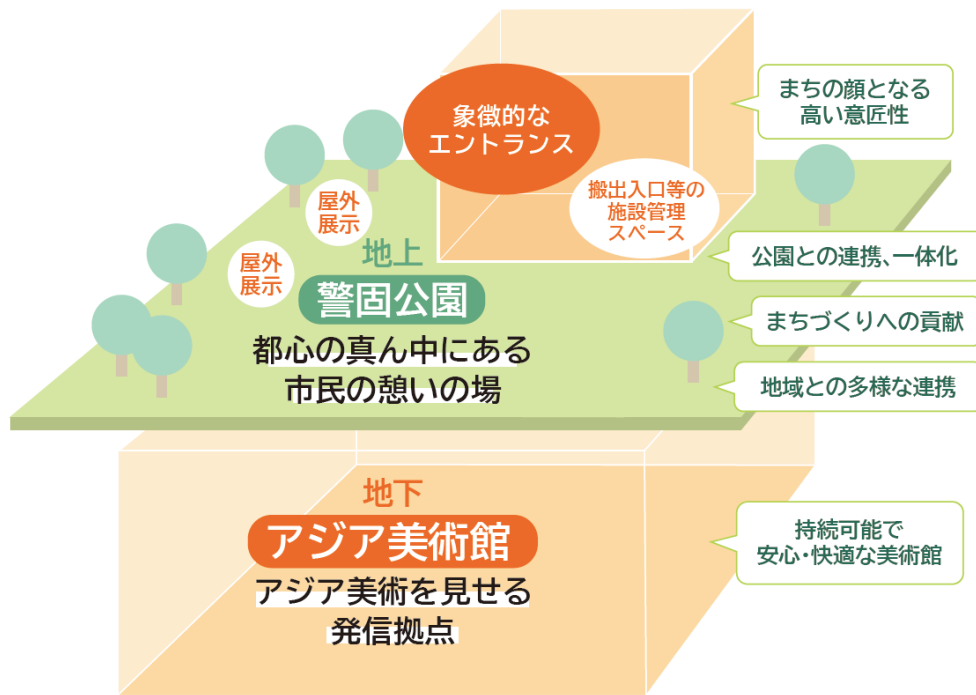


主な諸室の考え方

美術館活動等	必要と考えられる機能 ※面積については目安。今後の検討により変更	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示	<ul style="list-style-type: none"> アジア美術の傑作を中心としたコレクション展に加え、多様な企画展や特別展等に柔軟な対応ができ、大型作品をダイナミックに展示できる空間を備えた展示室 多彩な現代美術作品を作品の搬入から展示、一時保管、搬出まで円滑かつ安全に行える動線の確保 <p>約3,000㎡（うち ギャラリー約2,000㎡）</p>	ギャラリー、展示準備室、一時保管庫、搬出入口、トラックヤード等
学び・体験	<ul style="list-style-type: none"> 展示やコレクションに関連したワークショップ活動のイベントを行うことができる空間 団体見学や対話型アート鑑賞等の受け入れに十分に対応できる空間 <p>約600㎡</p>	多目的室、ワークショップ室、ボランティア室等
エントランス、にぎわい・集客	<ul style="list-style-type: none"> まちの顔となり、アートとの出会いを演出するアプローチやエントランス ナイトコンテンツやユニークメニュー等の活用も見込める十分な空間 屋外においてもアートを感じられる空間 <p>約1,500㎡</p>	魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス、イベント等での飲食提供機能等

全体床面積(目安)7,500~9,000㎡(参考:現地下駐車場の1層あたりの床面積約4,900㎡)

※ユニバーサル関連の諸室として医務室、授乳室等を設ける

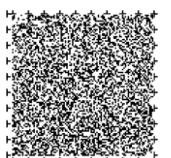


美術館の整備イメージ図

浸水対策の考え方

来館者の安全と市民の財産である美術品を守るため、地下空間に計画される美術館という特性を踏まえ、高潮や洪水等の影響を考慮した浸水対策を施設全体で講じます。あわせて、既存の地下の外壁の状況に応じて防水層の設置や止水対策を講じるなど、地下水の侵入防止対策を適切に行います。加えて、作品の一時的な収蔵・保管に係る一時保管庫は地上に配置するなど、バックアップ機能を備えます。

浸水対策例	対象となる場所のイメージ
止水板	地上から地下へつながる開口部への浸水対策 地下水の侵入防止対策
防水シャッター	地上の車両搬出入口の浸水対策
防水扉	地下の展示室、機械室等の浸水対策
防水層	地下水の侵入防止対策



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

開館時間・開館日

- ・多くの人でにぎわう天神エリアの特性や公園来訪者等の特性を踏まえ、ターゲットに合わせた開館時間や、展示室以外のスペースの夜間活用等、利用目的に応じた柔軟な運用を検討します。

施設の活用の考え方

- ・夜間や非展示時間帯も活かしながら、講演会等のユニークメニューとしての利用を推進します。
- ・展示室以外でも楽しみ、滞在できるオープンなスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる運用を図ります。
- ・作品保護や安全確保を前提に、ロビー等のパブリックスペースを柔軟に活用できる運営ルールを整備します。
- ・地上の公園と連携し、にぎわいの創出につなげます。
- ・周辺の施設や企業と連携した、文化的なイベント等の実施を検討します。
- ・イベント等を通じて新たな来館層の掘り起こしと、アジア美術館の認知向上を図ります。
- ・にぎわい創出やユニークメニュー等での活用のあり方については、今後検討してまいります。展示される作品についての販売は行わないものとします。

その他 ・広報活動の充実 ・デジタル活用・DXの推進 ・安全安心の確保・効率的運営

事業手法

公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、多彩なデザイン提案を募ることができる設計者の選定手法や、整備、運営面における民間ノウハウの活用を含めた事業手法について、民間事業者の意見を参考にしながら、検討してまいります。

〈官民の役割分担イメージ〉

市が担っていくもの	民間のノウハウ活用が期待できるもの
<ul style="list-style-type: none">・アジア美術館収蔵品の収集、保管、調査研究・収蔵品の適切な展示、公開・教育普及活動	<ul style="list-style-type: none">・維持管理業務の効率化・行き届いた接遇等の利用者サービス・美術館の集客向上や多様な利活用を図るサービスの提供

お問い合わせ先

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8階

福岡アジア美術館 魅力向上検討担当

TEL 092-263-1107

FAX 092-263-1105

https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/faam-miryoku/shisei/ajibi_miryokukoujou.html

令和8年6月

